

1. 議事日程（第10日目）

日程第 1 一般質問

1. 猪塚 安親君

(1) 松島地区清掃センターについて

2. 島田 光久君

(1) 高齢者介護、障がい者支援と課題について

(2) 上天草市観光基本計画策定について

(3) 上天草市の財政と補助金制度について

(4) 農業、漁業の現状と課題について

3. 北垣 潮君

(1) 認知症高齢者対策について

(2) 新型インフルエンザ対策について

(3) 統廃合後の大道中学校の活用策について

(4) 原発誘致の動きに対する市の対応について

(5) 市営住宅並びに上天草水害団地の現状について

---

2. 本日の出席議員は次のとおりである。（21名）

議長 堀江 隆臣

1 番 平田 晶子

2 番 何川 雅彦

3 番 田中 辰夫

4 番 須崎 光枝

5 番 宮下 昌子

6 番 西本 輝幸

7 番 高橋 健

8 番 小西 涼司

9 番 島田 光久

10 番 川口 望

11 番 田中 万里

13 番 北垣 潮

14 番 園田 一博

15 番 窪田 進市

16 番 津留 和子

17 番 桑原 千知

18 番 渡辺 勝也

19 番 田中 勝毅

20 番 猪塚 安親

21 番 新宅 靖司

---

3. 本日の欠席議員は次のとおりである。（1名）

12 番 山口 安彦

---

4. 会議事件説明のため出席した者の職・氏名

市 長	川端 祐樹	教 育 長	鬼塚 宗徳
総務企画部長	永森 良一	市民生活部長	村田 一安
建設部長	永森 文彦	教 育 部 長	鬼塚 憲雄
健康福祉部長	松浦 省一	経 済 振 興 部 長	佐伯 秀昭
会計管理者	池田 昇	上天草総合病院事務長	松本 精史
水道局長	鋤田 成朗	総 務 課 長	杉田 良一
財政課長	森内 孝生		

5. 職務のため出席した者の職・氏名

議会事務局長	村枝 誠二	局 長 補 佐	野崎 秀満
参 事	大石智奈美		

開議 午前10時00分

○議長（堀江 隆臣君） おはようございます。

出席議員が定足数に達しておりますので、これより会議を開きます。

本日も引き続き、一般質問を行います。

議事日程はお手元に配付しているとおりでございます。

日程第1 一般質問

○議長（堀江 隆臣君） 日程第1、一般質問を行います。

順次発言を許します。

20番、猪塚安親君。

○20番（猪塚 安親君） おはようございます。

一般質問も3日目を迎えまして、きょうが最後でございますが、私を含めて3人で一般質問も終わります。

執行部の皆さん、そしてまた議員の皆さんも少々お疲れかと思いますが、我慢しておつき合いを願いたいと思います。

きのうはかつてないほどの多くの傍聴人で、自席に行くにも、どこから入ってどう行ったらいいのかわからないほどで、上天草市議会始まって以来初めてのことで、後にも先にも、きのうのような傍聴人の多さは恐らく今後もないかと思えます。それだけに、先般行われました市議選で、

新しく構成されましたこの議会が注目をされているんだなという思いでございました。

また今回、私どもの姫戸町から議長を、若い議長を選出されまして、議会も今までよりも年齢的に若返ったなという中に、私のような年老いた者が一人加わっておりますが、何分老いた者を敬うという気持ちで、今後もよろしくお付き合いのほどお願いしたいと思います。

二日間の一般質問を聞いておりましたが、それぞれの方が、今回の選挙は厳しかったと言われていました。二、三人の方は、そういうことを言えば笑っていただけるかなという気もしますが、だれよりも厳しかったのは私だったと、自分で自覚をしています。

そういう中におきまして、今回の選挙は大変厳しいものでございましたが、猪塚は今度は落選だというようなうわさも聞きました。小さいころから戦い、いわゆるけんかには一度も負けたことがございませんで、今回も応援、声援してくださる多くの人たちを信じまして、私も最後まで頑張り通し、きょうこのような席に立つことができました。感謝を申し上げます。これから4年間、執行部の皆さん、そして議会の皆さんとともに、上天草市のために、自分なりに精いっぱい頑張っていきたいと思いますので、よろしく願いをいたしておきます。

今回の質問は、私がちょっと施設を見学に行きました際、従業員の方からいろいろと話を聞く中で、ここはひょっとすると統合されてなくなるかもしれないというような話を聞きました。といいますのは、ごみ処理場の件でございます。

どういうことかと聞いてみましたら、天草に一つにまとめようとしているという話を聞きまして、それからいろいろと、私なりに調査をしてみました。そのことに関しまして、きょうは少々聞いてまいろうかと思えます。

今回の一般質問を聞いておまして、初日の桑原議員、そして田中万里議員の質問がございました。議会の組織のあり方とか、あるいはまた、今後開かれた議会にするため、市民との距離をなお一層縮めるために、議会のテレビモニターの設置とか、あるいは議会広報の発行という質問をされましたが、答弁を聞きましてがっかりいたしました。特に感じたのは、議会広報の件で尋ねたときに、それは議会でやることだと一蹴されたことです。それぞれに費用はかかるかと思うんですが、いろいろな意味で、最低、検討してみますというような答弁でもあればよかったんでしょうけれども、それは議会でやることから、それだけで答弁が終わってしまったことを議員の皆様も覚えていらっしゃるかと思います。

執行部と議会は車の両輪だと。皆さんがよく言われますが、そういう答弁を聞いておますと、車の両輪どころではありません。議会も、本当に車の両輪みたいに、いろいろな意味合いでお互いに切磋琢磨しながら、一つの目的に向かって走っていこうかと思っておりましたが、きのうの答弁を聞いておまして、とんでもないという感じがしました。片輪で走れるならば、どこまで走れるか走ってみろと。我々は、今後は車の両輪たる走り方はできないという思いを、きのう強く抱いたところでは。

議会も新しい議長を迎えまして、議会基本条例をつくろうかというようなことでも、いろいろと話し合いをしています。つまり、議会の合議制の特徴を強調するとともに、住民と歩む議会実

現を目指そうという条例の制定に向け、調査研究を実施しようとしている。そういうことも訴えて、議会事務局職員の増員、あるいは今は課長扱いである議会事務局の局長を部長扱いにできないかという質問もされていましたが、私以外のあと21人の議員さんを見てください。それぞれが海千山千の人ばかりです。そういう人をまとめながら、そして、執行部とのかけ橋となって頑張っている議会事務局長を部長に昇格させた場合の給与が今と7,000円ぐらいしか違いがないということも聞きました。

川端市政になりまして2年間、北海道の夕張みたいにならないように、財政健全化に向けて一生懸命、市長のリーダーシップのもと、職員の皆さんも、また我々も一緒になって頑張ってきています。財政的に、まだまだ厳しいものがあることは、皆さん御承知のとおりです。そういう中であって、経費削減のためにいろいろなことを考え、そしてやってこられて、おととい、またきのうの執行部の答弁にもありましたように、危機は脱したようですが、まだまだ油断はならないと思います。

そういう中であっても、議会事務局長の昇格ぐらいは認めてくれていいのではないかと思います。皆で相談しながら検討しますというような答弁でもあれば、検討はしてくれるのかと受けとめられますが、頭ごなしに一蹴されては、提案された議員の立場はもちろん、我々議会サイドから小さい要求さえできないのかと、きのうはそういう思いを強く抱いたところでございます。

事務局職員の1名増員、または課長を部長に昇格、財政負担がどれほど多くなるのか、私にはよくわかりませんが、もう少し我々議会サイドの気持ちも考えていただきたいということを強く要望しながら、通告に従いまして、質問をしてまいりたいと思います。

私が関心を持っております、ごみ処理施設の建設計画のことに対して、少しお尋ねをしてまいろうかと思っております。

一般廃棄物でありますし尿及びごみ処理につきましては、かねてより住民の負託にこたえるべく対応していただいております、大変感謝をしているところでありますが、つい先般、ごみ処理施設の建設計画に取り組んでいるというようなことを聞き、びっくりしたところでございます。このような廃棄物の問題は、住民と深いかかわりを持って切り離せない、密接な問題でありまして、私たちが生活をしていく上におきまして最も重要な問題ではなからうかと思っております。そういう大事な問題が、私が聞きましたところによりますと、どんどんと先に進んでいるようです。

といいますのは、何人かの議員さんも消防署問題で質問をされましたが、それと同じです。広域連合で管理運営をしていますこの施設、私どもが知らぬ間に、先に先にと進んでいるようです。こういうことを聞きまして、お尋ねをしようということになりました。

今言いましたように、現在、水面下で進められているということを知りまして、組合議会の議員さんや市長の市政報告の中でも恐らく触れておられないのではないかと思います。私だけではないと思います。そこで、私自身の認識を深めるために御教示いただければと思いますので、よろしく願いいたします。

まず初めに、そういう話が出ていることからしまして、どこの施設を、どのような理由から整

備しなければならなくなつたのか、担当部長にお尋ねをいたします。

○議長（堀江 隆臣君） 市民生活部長。

○市民生活部長（村田 一安君） おはようございます。

ただいまの御質問でございますけれども、どこの施設をどんな理由から整備の必要が生じたのかということでございますが、既存のすべての施設、天草には五つございますけれども、その施設の老朽化、それから使用期限及び建設費、運営経費の面から、天草全域で1施設を建設する方向で提案があつておりました、現在協議が始まっております。

○議長（堀江 隆臣君） 猪塚君。

○20番（猪塚 安親君） その協議自体、いつから、どういう形で始められたんですか。

○議長（堀江 隆臣君） 市民生活部長。

○市民生活部長（村田 一安君） 天草広域連合でのごみ処理施設建設計画、これにつきましての経過について、お答えをしたいと思います。

計画の時期でございますけれども、天草広域連合では衛生部会というのがございます。平成18年、新たに市町合併によりまして関係2市1町となったために、改めまして基本事項について協議を始めております。

これにつきましては、平成18年から新ごみ処理基本計画に基づく新たな施設整備事業を推進する中で、平成20年1月の新ごみ処理施設整備事業アンケートの結果を踏まえ、実質的な検討がされております。

平成20年5月26日には、第1回関係市町衛生施設建設計画策定部会で、天草広域連合廃棄物ごみ処理計画案でございますが、総合評価書の作成依頼がございまして、上天草市では5月30日付で、総合評価書、2カ所建設を提出しております。

7月17日に、第1回関係市町衛生担当課長会議及び第2回関係市町衛生施設建設計画策定部会において1施設建設の説明があり、その折に、上天草といたしましては、1施設建設に同意したことがないと意見を述べております。

基本的には、本市といたしましては2施設の建設を主張いたしまして、最悪の場合でも中継施設の建設を要望してまいりました。

7月29日の幹事会では、先ほど申しました7月17日の会議におきまして、中継輸送基地建設を条件に1施設建設で合意に至ったとの報告がされております。

平成20年10月23日の天草広域連合議会では、新ごみ処理施設建設用地選定委員会設置要綱案が示され、持ち帰り、検討いたしました。

以上が、経過でございます。

○議長（堀江 隆臣君） 猪塚君。

○20番（猪塚 安親君） 今、皆さんお聞きのとおりです。皆さん知っていましたか。

要するに、今月10日には建設用地の選定委員会が設立されて、そして第1回目の会議があつたようです。我々が知らないところで、こういう大事なことが議論されて、あたかも関係市町村

の市民が皆が知って納得しているかのごとく、こういう計画を進めているようです。

先ほど、7月29日の幹事会で一つにという報告があったということですが、この幹事会とはどういう、どのくらいの職員の人たちで構成されていますか。また、上天草市からはどなたが出ていらっしゃいますか。

○議長（堀江 隆臣君） 市民生活部長。

○市民生活部長（村田 一安君） この幹事会には、総務課長が出席をいたしております。

○議長（堀江 隆臣君） 猪塚君。

○20番（猪塚 安親君） 総務課長といいますと、今21年ですから、20年はどなたでしたか。

○議長（堀江 隆臣君） 総務課長。

○総務課長（杉田 良一君） そのときには、私が幹事会に出席をいたしております。

○議長（堀江 隆臣君） 猪塚君。

○20番（猪塚 安親君） あなた自身、こういうところまで話が進んでいることは、前からわかっていましたか。

○議長（堀江 隆臣君） 総務課長。

○総務課長（杉田 良一君） はい、お答えいたします。

これは衛生作業部会というのがありまして、その中で十分検討されて、こういう計画がなされましたという報告を受けております。

○議長（堀江 隆臣君） 猪塚君。

○20番（猪塚 安親君） そういう報告を受けたときにどんな思いでしたか。どう感じましたか。

○議長（堀江 隆臣君） 総務課長。

○総務課長（杉田 良一君） このことにつきましては、私の一存ではとてもお答えできる、決定する事項ではございませんので、それぞれ上司のほうに報告をし、復命をいたしながら、またその当時の環境衛生課長とも話をしながら進めております。

○議長（堀江 隆臣君） 猪塚君。

○20番（猪塚 安親君） 上司といいますと部長、あるいは、ここには副市長はおりませんので、市長あたりにも、あなたから届けましたか。それとも、あなたはすぐ上の上司の部長に報告をされたんですか、どちらですか。

○議長（堀江 隆臣君） 総務課長。

○総務課長（杉田 良一君） お答えいたします。

復命書をもって、決裁で報告をいたしております。

○議長（堀江 隆臣君） 猪塚君。

○20番（猪塚 安親君） ということは、最高責任者である川端市長にもそのことは届けられた、届いたと受けとめてよろしゅうございますか、市長。

○議長（堀江 隆臣君） 総務課長。

○総務課長（杉田 良一君） 復命書でしたので、当然行っているかとは思っておりますが、その確認はできておりません。

○議長（堀江 隆臣君） 猪塚君。

○20番（猪塚 安親君） 先ほどの市民生活部長からの報告では、天草にある五つのごみ処理場を一つにするという報告があります。本渡地区清掃センター、それに松島地区清掃センターは、この広域連合の管理下において運営されてきたということは、私も前々から認識をしておりましたが、あとの牛深クリーンセンター、御所浦クリーンセンター、西天草クリーンセンターは天草市の管理運営ではなかったんですか。

○議長（堀江 隆臣君） 市民生活部長。

○市民生活部長（村田 一安君） ただいまの御質問にお答えいたします。

既存の5施設でございますが、ただいま猪塚議員御発言のとおり、本渡と松島センターにつきましては広域連合の所管でございます。

あと二つのところ、牛深、御所浦。それから西天草、これは天草町と河浦町が含まれているわけでございますが、この三つにつきましては天草市の管轄でございます。

○議長（堀江 隆臣君） 猪塚君。

○20番（猪塚 安親君） 先ほどはすべてを一つの施設にというような答弁があったと記憶していますが、三つは、今現在も天草市の管理運営ですか。

○議長（堀江 隆臣君） 市民生活部長。

○市民生活部長（村田 一安君） 天草広域連合規約の第4条第6項、ごみ処理施設の設置及び管理運営に関することの中で、天草市にあっては合併前の牛深市、御所浦町、天草町及び河浦町の区域に係る事務を除くとなっておりますので、先ほど申しましたとおり、その三つの施設は天草市の所管ということになります。

○議長（堀江 隆臣君） 猪塚君。

○20番（猪塚 安親君） 私も今回の議案説明資料を見てみましたら、今、部長が述べられたようにうたっております。そのまま、ほかの3施設はこれにうたっているとおり、今後も天草市の管理運営でやっていくんだと受けとめてよろしゅうございますか。

○議長（堀江 隆臣君） 市民生活部長。

○市民生活部長（村田 一安君） 既存の施設がそのままの運営を続けていくことになると、議員御指摘のとおり天草市が運営をしていく、あとの2施設は広域連合で運営をしていくことになると思います。

○議長（堀江 隆臣君） 猪塚君。

○20番（猪塚 安親君） ところが20年でしたか、第1回連合長の施政方針の中には、施設整備に、そういうごみ処理基本計画等に基づきまして、熊本県の一般廃棄物処理広域計画との調整を図りながら、天草管内の既存施設の更新時期も視野に入れて、施設整備に向け協議検討

を進めてまいりますと、議事録の中で述べておられます。

20年といいますと、昨年のことですから、そういうことを述べられているということは、五つの施設を一つにとらえて施設の整備に向けていくことが述べられたと受けとめておりますが、いろいろ議事録を取り寄せてみましても、19年度にはこのごみ処理施設に関することは、ほとんど載っていませんでした。

18年の第2回臨時会には、本渡センター、松島センター、現施設が存続する間は、本渡地区清掃センター、松島地区清掃センターとするその名称は残すと。ところが、広域化計画に基づきまして5施設統合の計画を進めると述べてあります。

また、18年の第3回定例会ですが、これは8月25日。議案説明の中で、議事録には10ページとあります。議案でどう出しているのか、私には確認することができませんが、ごみ処理施設の設置及び管理運営で、今後の施設整備は天草管内5カ所の統合、また埋め立て処分地3カ所の管理運営体制の見直しについて各施設の更新時期を視野に入れ、視野にという言葉を使っておりますが、基本方針実施計画の策定を行い、施策を展開することとしていると。

今度は19年2月16日の第1回定例会ですが、これは厚生委員会の委員長報告です。その当時は、前上天草市議長でありました渡辺氏が広域連合の厚生委員長だったようです。その中でも、2市1町の担当者会議と具体的に協議し、平成26年度完成を目標に準備を進めると。

これが19年になりますと、1施設に整備をしていくという受けとめができるようなことは議事録にも載っていませんでした。用地の選定委員会まで設置して協議をすることになりますと、既に施設の建てかえを計画されていると受けとめなければならないと思うんですが、もうそこまで行っているのではないですか、部長。

**○議長（堀江 隆臣君）** 市民生活部長。

**○市民生活部長（村田 一安君）** 今後の方針についてでございますけれども、現在五つのセンターの状況を申し上げますと、まず松島でございますが、平成8年4月から稼働いたしまして14年目を迎えております。1日の処理能力は34トンでございます。

次に本渡地区センターでございますが、10年目でございます、処理能力は93トン。

西天草センター。これは河浦、天草町でございますけれども、15年目で処理能力は17トン。

牛深及び御所浦センターがそれぞれ18年目でございます。処理能力は牛深が36トン、御所浦が10トンとなっております、このごみ処理施設の耐用年数は一般的に15年から20年と言われておりますので、今申しましたように4施設の状態を見ますと、先ほどから述べておりますように、そろそろ建てかえの時期が近づいている状況下で、このような方針が打ち出されているものと思っております。

**○議長（堀江 隆臣君）** 猪塚君。

**○20番（猪塚 安親君）** 私が思いますところでは、牛深クリーンセンター、御所浦、西天草クリーンセンター、この三つの施設を見ますと、稼働してから18年目あるいは15年目と、後を考えて、すぐさまつくり直さなければ稼働能力がないということで急いでいるのでは



ないかと、私はそのように受けとめています。

この3カ所の施設を牛深、御所浦、天草町及び河浦の区域にかかわる事務は除くとうたってありますが、急いでいることを考えますと、この3カ所の施設が古くなったから早く建てかえなければならないという、天草市の考え方によるところが、こちらへものしかかかってきているのではないかと、私は受けとめています。

まず広域連合の中に入れるのか入れないかも議論しない中で、天草市では着々と準備を進めているのではないかとしか受け取れません。何か密室で決めたことを後で報告して、広域連合の議会で決定したことですから、各市町村はこれに従ってくださいと、頭ごなしに抑えてくるような印象しか浮かんでこないんですが、とんでもないことだと思います。

幸いにして、消防署問題は見直し、検討していくことが、きのうも報告がありました。この消防署も、市民の日常生活においては、市民の安心、安全を守る上からは、なくてはならないものです。

また、ごみの処理施設もそうです。天草は宝島と言いながら、もしも1施設になった場合、その施設にトラブルが起きて稼働できなかった場合、毎日の市民生活の中でごみは必ず出てきます。1日、二日のトラブルでよかったとしたら、それは何とかなるかもしれませんが、また、これが老朽化してきてストップしたということになりますと、天草はたちまちのうちに、宝島どころか、ごみの島になるのではないかという危惧をいたします。

今のように二つの施設があるなら、本渡センターと松島地区センターが今のような状況下に置かれて何とか続いていくなれば、片方がトラブルを起こした場合でも、何とかごみの処理はできるでしょう。しかし一つに持っていった場合、とんでもないことが起きはしないかと思えます。

また一つの施設にした場合、恐らく天草市に持っていくのではないかと危惧しています。用地選定委員会もこれから開かれていくでしょうが、そのうちに用地がどこになるのか、あからさまになっていくと思いますが、まだまだ、そこまで行くこと自体がおかしいのではないかと。我々は蚊帳の外に置かれて、そして、秘密のうちにこういうことを進めること自体、私は納得がいきません。

私、ここに一つの資料を持っていますが、平成18年5月から関係市町の衛生担当課長会議、広域連合幹事会等において協議を重ねて、財政負担の軽減及び環境保全の観点から、条件はあるものの5施設を1施設に集約して、広域施設として取り込むことが平成20年7月に確認されましたとあります。

何ですか、これは。そういう、いろいろと議論していかなければならない事件かと思えますよ。一つの施設につくりかえた場合、恐らく100億台の膨大な費用がかかる施設になろうかと思っています。そうしますと、また上天草市の負担も大きくなります。それは、市民に反映されていきます。恐らく、市民に費用を負担してもらわなければならなくなります。こういう重大な問題を、秘密裏にどんどん先へ進んでいくこと自体おかしいのではないか。これは事件に値しはしないかと、私は受けとめています。

菊池でしたか、あそこもやはりごみ処理施設ですが、事件になろうとしています。これも市民が知らない中で、一部でいろいろな取引がされているようです。

市民サイドからしますと、議会の代表の議員が持ち帰って討議をされて、そしてまた連合議会で発言をすべきだと思っておりますが、議案を見えますと、上天草市から代表として選出されて広域連合の議会に今まで行っておられた方の、こういう問題に対しての発言が議事録には載っていません。本当に残念に思います。

今回、この広域連合の議会に選出されました3名の議員さん方には、今後こういう問題に対しても強く意見を述べていただいて、消防署の問題ではありませんが、振り出しに戻して議論を尽くして、市民の納得の上でこういう施設をどこに、どのような施設にすべきかをよく論じていただきたいと思いますので、よろしく願いをしておきます。

もう時間もなくなりました。担当部長からは、この問題に対する答弁はすぐ終わりますということが12日に私に返ってきました。それを聞いたときに、どう考えているのか、こういう大事な問題を軽く受けとめてはいないかと思ひまして、そのときも残念で残念でなりませんでした。

この問題、本当にもとに戻す、見直して、そして論議の上に論議を重ねて、関係市町村の市民が納得した上で、それでは仕方がないでしょうということまで行ってから、場所の選定とか、施設の能力がどの程度とか、いろいろなことを考え合わせて建設に向けて進んでもらいたいと強く要望しておきたいと思ひます。

もう時間もありません。いろいろ詰めて聞きたいことがまだございますが、一つ一つ詰めて聞いてまいりますと、あと1時間ぐらいかかりはしないかと思ひます。とてもそういう時間はもらえないと思ひますので、最後になりますけれども、この2年間いろいろな批判を受けながら、また悪評を言われながら、財政健全化のために並々ならぬ努力をされてこられました市長並びに職員の皆様には、心からなる感謝とお礼を申し上げたいと思ひます。

また、我慢に我慢をされ、協力をいただきました市民の皆さんにも感謝を申し上げるところでございますが、これまでの質問の中では、予算的な要求もただただ多かったように受けとめます。財政的に少し明るい兆しが見えたといたしましても、まだまだ厳しい状況下にあるのは、だれもが認識しているところかと考えます。ここで余りたがを外すと、もとのもくあみに、いや、それ以上の悪い状態になっていくのではないかと私は危惧をいたしております。

先日、機会がありまして、宇城市議会の一般質問を聞くことができました。その中で一人の議員の話がございましたが、全国から自治体の議員や職員、市民の人たち250人ぐらいが集まりまして、2年前に財政破綻しました北海道夕張市の現状視察を行われたそうでございます。現在の市長さんの苦しい胸の内や職員の皆さんの声を、そして市民の人たちのあきらめの声を聞いて涙が出たそうです。町の中を歩いてみましても、人と会うこともない、だれにも。また、観光客の姿なども見えませんでした。本当に寂しいものでした。

そうなった原因は何かと言いますと、国のエネルギー政策の転換、要するに石炭から石油への切りかえによりまして、13万人の人口が今現在1万2,000人に激減したということござ

います。

そこで、市としての生き残り策を観光事業に求めまして、炭鉱住宅の4,000戸を市営住宅にし、また炭鉱用地1,300ヘクタールを買い取って石炭の歴史村や大型遊園地などをつくって、また誘致した民間企業が手放したスキー場やホテルを買い取るなど、その当時の市長が頑張ってやられたそうですが、平成18年現在の負債総額が632億円だそうでございます。そういう観光施設に切りかえること自体に、国も道庁もそれはすばらしいと称賛しまして、全国表彰まで行ったそうです。

そして、補助金や起債を承認したところですが、今のような状態になりますと、国も道庁も我々は知らないよ、あなたたちがしたことだから、あなたたちで財政再生をなさいと。地域再生じゃなくして財政再生だけを求めて、そして借金の返済を早くしろ、早くしろと迫っているそうです。最後にとどめを刺したのが、これはどこでも言えるかと思うんですが、小泉政権での三位一体改革による地方交付税の削減であったと。

現在の夕張では、未来とか夢とかは口にも出せません。こういうことになるのは夕張だけではなくて、これから先は全国どこにでも起き得ることです。国の甘い言葉に乗っているいろいろな事業をやれば、こういう失敗もあります。260人いた職員が今現在107名で、職員は、ほとんど幹部職員だそうです。もうやめて、今は107名だそうです。職員の給料は40%カットだそうです。もうとてもじゃないけれども、生活はやっていけないというような――。

**○議長（堀江 隆臣君）** 猪塚安親君に申し上げます。

時間が残り少なくなりましたので、最後のまとめをお願いいたします。

**○20番（猪塚 安親君）** そういうことの一例を、ここで皆さんに報告申し上げましたが、上天草市も何とか危機を脱して、20年度の決算はまだ見ませんが、市長あたりの話にもありましたように、少しはゆとりが出てきたということでございまして、そういう中に、市民の皆さんにも長い間我慢をしていただきましたので、いろいろな施策に少しは方向転換をしていこうかという報告がありました。今、夕張のことを参考に申し上げましたが、上天草市の財政状況がせっかく何とかなりはしないかという状態まできたのに、ここで本当に、それぞれの要求どおりに金をどんどん出しますと、第二の夕張とならないとも限らないと思います。

ですから、執行部の皆さんも職員の皆さんも、我々議会も、本当に辛抱に辛抱して、また市民の皆さんにも引き続き迷惑をかけるかと思いますが、優先順位を持って、ここは市民のためにやらなければならないことには、いたし方ないと思うんですが、ここでもう一度ふんどしのひもを締め直していかなければならないのではないかとすることを申し上げまして、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

**○議長（堀江 隆臣君）** 以上で、20番、猪塚安親君の一般質問が終了いたしました。

ここで、10分間休憩いたします。

休憩 午前11時04分

再開 午前11時14分

○議長（堀江 隆臣君） 休憩前に引き続き再開いたします。

9番、島田光久君。

○9番（島田 光久君） おはようございます。9番、島田光久です。

議長のお許しが出ましたので、一般質問をさせていただきます。

きょうは私を応援してくれている市民の代弁者として、また地域の声を、市民の目線で質問してまいりたいと思います。

きょうは、まず初めに高齢者介護、障がい者支援と課題について質問してまいります。

今、日本全体において少子高齢化が社会問題になっています。私たちの住む上天草市においても、大矢野の湯島が高齢化率50%を超え、維和島、松島の内野河内、教良木、今泉、姫戸町全域、龍ヶ岳全域が35%近く高齢化率が上がっています。そして、その平均値は30%を超えています。上天草市の人口の3分の1が、65歳以上の高齢者の人口割合になっています。でも、この高齢化率を逆の面から見ると、元気なお年寄りが多い、そして長生きの人が多く、暮らしやすい上天草市かなと。天草全体が温暖で、長生きの人が本当に多いです。

私の知っている男性の高齢の方ですが、80歳、90歳を過ぎて毎日、畑仕事に精を出している人もいます。この間ちょっと聞いてみました。「お年、何歳になったんですか」「94歳」「病院には行かないんですか」「病院にはたまに行きます。腰が痛いだけ」「幾つまで生きるんですか」と聞いたら「死ぬまでたい」と、そんな回答が戻ってきました。

地域においては、ゲートボール、グラウンドゴルフ、さまざまな趣味、生きがいを持って元気に生きていらっしゃる高齢者もたくさんいらっしゃいます。でも、人間は必ず年をとり、老いがきます。中には閉じこもりや、認知症があらわれて毎日病院に通っていらっしゃる人もたくさんいらっしゃいます。

これから自分たちが年をとって、介護を受ける事態が必ずやってきます。そのときの不安を持っている高齢者もたくさんいらっしゃいます。自分が動けなくなったとき、だれが介護してくれるのだろうか。今、地域においては、子どもたちが都会に出て、核家族化が進んで、子どもたちと一緒に生活している世帯が少なくなりつつあります。

そこで、上天草市の介護施設利用状況、現状を先に教えてください。

○議長（堀江 隆臣君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（松浦 省一君） 介護施設の利用状況でございますが、現在、上天草市には特別養護老人ホームが4カ所、ここで210名の方が入所していらっしゃいます。それから老健、老人保健施設が3カ所。ここに、190名の方が入所されています。あと、介護療養型医療施設と言いまして、大矢野地区に12床ございます。入っておられます。それから、有料老人ホームに24名、グループホームに63名、合計499名の方が入所されております。

入所状況は、以上でございます。

○議長（堀江 隆臣君） 島田君。

○9番（島田 光久君） 待機の状態、待っている人が何人いらっしゃるかはわかりますか。

○議長（堀江 隆臣君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（松浦 省一君） 待機の状態ということで、お答えいたします。

まず、在宅で待機をされている方の数ですが、53名いらっしゃいます。それから、病院の中で待機されている方が67名、老健で待機されている方が63名、グループホームの中で待機されている方が15名、合計198名が待機されております。

通常言われている在宅の待機者、この数字が53名。先ほど言いましたとおり、53名。この方々が家の中で待機をされているということで、日ごろ言われている数字かと思えます。

以上でございます。

○議長（堀江 隆臣君） 島田君。

○9番（島田 光久君） ということは、上天草市は、待機者は案外少ないのではないかなと思うんですね。県外の各市町村のいろいろなニュースなんか見ていると、何百名待ちとかいう情報が結構流れているんですけども。

例えば、在宅では53名の待機者がいらっしゃる。この53名の待機者というのは、介護度がどれくらいの人になりますか。

○議長（堀江 隆臣君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（松浦 省一君） 介護度別に言いますと、介護1の方で9名、介護2の方で16名、介護3の方で17名、介護4の方で7名、介護5の方で4名の数値となっております。

○議長（堀江 隆臣君） 島田君。

○9番（島田 光久君） 介護制度においては、例えば介護3、4、5の人は、月額30万円くらいの介護の支援費を使えるようになっています。介護4、5の人で構いませんけれども、例えば施設ではどれくらいの介護費用を使っているか、施設で介護保険の中で使っている金額と、在宅で介護費用を使っている額がわかりますか。

○議長（堀江 隆臣君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（松浦 省一君） 失礼いたしました、ちょっと資料を探せなくて。

施設で1人当たり大体30万円程度、それから居宅でされている方が大体17万円程度かかることになっております。

○議長（堀江 隆臣君） 島田君。

○9番（島田 光久君） 上天草市高齢者福祉計画、介護保険事業計画という4期の事業計画が、二、三日前、私の手元に届いたんですけども、この計画書、いろいろなサービスが網羅されています。

先日、介護保険のこれが全家庭、全世帯に配られていると思います。これを見ると、介護保険は本当によくわかります。いろいろなサービスが行政の枠で用意されています。

今の介護制度では、認定された方が自分で選んで介護を受ける仕組みになっています。黙っていてもこの制度は使えません。場所にしても内容にしても、自分で選んで介護を受ける仕組みに

なっていると思います。

そこで、例えば今、在宅で介護を受けている人は、本当はサービスが35万円くらい使えるにしても、入所待ちで17万円までしか使っていない。在宅で介護するということは、やはり本当に大変だと私は思います。

その中で、この計画をちょっと見てみますと、いろいろな支援の中に、介護保険の中の事業で任意事業というのが最後にありますけれども、この中で介護慰労事業というのがあります。この事業についてちょっと教えてもらえますか。

○議長（堀江 隆臣君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（松浦 省一君） 介護慰労事業と言いまして、要介護の方を在宅で介護されている方、介護を継続してされる方を支援するための慰労金でございます。

介護4または5の要介護者を過去1年間、介護保険を利用せず在宅で介護している方。1週間までは許容範囲ですが、過去1年間介護保険を利用していच्छらない方を介護している方、しかも前年度非課税の方に対して、1年間に10万円の慰労金を支給する事業でございます。

○議長（堀江 隆臣君） 島田君。

○9番（島田 光久君） 現在、この慰労金事業の支給を受けている世帯がありますか。

○議長（堀江 隆臣君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（松浦 省一君） なかなか条件に合わなくて、制度が始まって以来、利用者はありません。実績はありません。

○議長（堀江 隆臣君） 島田君。

○9番（島田 光久君） ということは、この制度は絵にかいたもちではないかと思うんです。確かに立派な制度だとは思いますが。在宅で介護すると24時間介護になります。家族は、なかなか大変です。

だから、この慰労金事業制度をもうちょっと緩和されて、やはり在宅で24時間、介護を一生懸命頑張っている人に――。

家族も介護保険料を払っています。例えば4人世帯だったら、4人の人が介護保険料を払っていると思うんですよ、本人もちろん払っているからですね。

だから、この慰労金事業をもうちょっと使いやすい、利用しやすい仕組みに変えることは考えていच्छいませんか。

○議長（堀江 隆臣君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（松浦 省一君） これまでの実績をもとに、どうしても該当者がいないということでございますので、例えば、対象要件をある程度緩和する。例えば、今10万円を1万円にして対象者を広げるとか、要件をもう少し緩和する。例えば1年間で1週間というのを1カ月ぐらいに延ばすとか、そういったことで現在検討を進めているところでございます。

○議長（堀江 隆臣君） 島田君。

○9番（島田 光久君） 検討を進めているということですが、例えば来年の事業で、在

宅で介護した場合には月1万円くらいの介護報酬を支給していいと、私は思うんですよ。恐らくほとんどの人が、自分の認定基準額の半分使っていらっしやらないと思うんです。

だから、この金額、ここで10万円設定されているんですけども、この10万円を基準としてもいいんですけども、例えば、これが4、5の介護度になっているけれども、これを3まで落とすとか、非課税世帯であるとか、いろいろな条件がついているのを外して、せめて、在宅で一生懸命頑張っている人を支援する。

恐らく、これからも在宅介護はふえてくると思います。数年後には療養病床が廃止になります。病院に入るか、在宅にするか、選択が出てくると思います。特に、高齢者は住みなれた家で暮らすのが幸せだと私は思うんですよ。だから、この辺はぜひ検討していただいて、介護の支援策を考えてほしいと思うんです。

市長にお尋ねします。私はこの支援施策に取り組んでいいと思うんですけども、市長はどう考えますか。

**○議長（堀江 隆臣君）** 市長。

**○市長（川端 祐樹君）** 今の議員さんのお話、私も賛成しております。

賛成といいますのは、介護保険法の中で、お年寄りの方を見るのは当然、その子どもであったり家族であったりするわけですけども、見られないということで、行政機関等を通じまして施設に預けるわけでありまして。

その預けられた方を対象とした保険でありまして、実際家族で介護されている方々にとっては特段見返りが無いといえますか、そういう世の中になっております。

これは実は、介護保険法の盲点であると私も認識しております。本来であれば、家族の方が介護するという前提であるのが、これまでの日本のあり方であったと思っています。そういった意味をくみしながら、この事業、家族介護慰労事業でありますけれども、意義あるものと思っております。ただ、制度運営上、対象者がいないということは、やはり制度が少し合っていないわけでありまして、この制度を改正するか、あるいは一時的ではありますけれども、今回の経済対策関係の事業の一つとして、家族で介護されている方に対して幾らという支給もでき得るのではないかと、そういう考えもございまして。

**○議長（堀江 隆臣君）** 島田君。

**○9番（島田 光久君）** 今の市長の前向きな答弁、確かに感謝いたします。

在宅で介護されている方も少しは勇気が出てきて、うちの親も少しは在宅で見ようかという人がふえてきたら、これは素晴らしいことだと思います。

では、次に行きます。

障がい者の施設入所者数と、通所、在宅介護の利用状況を教えてください。

**○議長（堀江 隆臣君）** 健康福祉部長。

**○健康福祉部長（松浦 省一君）** まず、障がい者の施設入所者数でございます。現在、45施設に142人の方が入所されております。市内の施設に29人、市外の施設に113人でござ

います。

それから通所、在宅介護の状況ですが、居宅介護及び通所の利用状況としましては23施設に73人の方。市内の施設に37人、市外の施設に36人が通所されている現状でございます。

○議長（堀江 隆臣君） 島田君。

○9番（島田 光久君） 障がい者がどうしても家に閉じこもりとか、例えば、障がい者の家族が、ちょっと急用ができた。例えば、大阪なら大阪に葬式に行くとか結婚式に行くとか、突発的な用件が出てくると思うんです。そのときに一時的に預かってくれるような仕組みは、この中で利用とかあっていますか。

○議長（堀江 隆臣君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（松浦 省一君） 通常の通所サービス、デイサービスと言われる事業については実績があるんですけども、何日か旅行のときに預けることは、今のところ実績としてはないようです。

施設としましては、特別養護老人ホームのショート枠があるんですけども、その中で、市と特別養護老人ホームとの契約の中で、預けることも可能だと聞いております。

○議長（堀江 隆臣君） 島田君。

○9番（島田 光久君） 障がい者の人は、このことをほとんど知らないと思うんですよね。恐らく施設側も、そういう認識はないと私は思うんですよ。

だから、そういう仕組みができるんだったら、やはり老健施設、老人介護施設、いっぱいありますから、そこでやはり障がい者も受け入れて、1泊、2泊、緊急のときは利用できるような指導を行政側で研究されて、やってほしいと思うんですけども、どうですか。

○議長（堀江 隆臣君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（松浦 省一君） 施設からとか、多分担当からは、そういう担当者の方には機会を通じて周知はしているものと思っておりますけれども、周知が足りない分につきましては、今後指導に努めてまいります。

○議長（堀江 隆臣君） 島田君。

○9番（島田 光久君） 施設側の理解と、利用者、障がい者、さまざまな人もいらっしゃるから、その辺をもうちょっとわかりやすく行政として紹介する、どこどこの施設でこういうのを利用できますよとか、そういうのをしっかり精査して、利用できる体制を多少でもつくっていただきたいと思います。

障がい者の自立に向けた施設は、どうしても上天草市に欲しいんですけども、今のところ整備されていませんから、本渡とか宇土とかに通所されている方もたくさんいらっしゃいます。ぜひ、その辺を検討されて、取り組んでほしいと思います。

次に行きたいと思います。

例えば、高齢者の介護、障がい者の介護。やはり介護疲れで、虐待とか自殺とか、全国的にも結構あります。熊本県でも結構、相当数の自殺者も出ていらっしゃるし、その中でやはり高齢者



の自殺が半分近くを占めている。上天草市の場合は、その辺はどのような状況になっているのか、データがあったら教えてください。

○議長（堀江 隆臣君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（松浦 省一君） 上天草市の自殺者数、平成19年度は全体で4件あっておりますが、その中で65歳以上の方が1件でございます。

平成20年度、これは暫定でございますけれども、全体で12件ありまして、65歳以上の方が3件いらっしゃいます。

虐待もですか。

○9番（島田 光久君） はい、虐待もお願いします。

○健康福祉部長（松浦 省一君） それでは、高齢者及び障がい者、幼児の虐待状況について御説明いたします。

まず、高齢者の虐待の状況でございますが、これは単年度ごとではなくて、平成18年度から平成20年度までの合計でございます。相談通報件数が17事例で18人。うち虐待認定とされたのが9事例ございまして、10人となっております。

障がい者虐待の状況につきましては、平成18年度から事例はございません。

それから、幼児の虐待の状況でございますが、平成18年度は事例なし。平成19年度は養育放棄、ネグレクトと言われますけれども4件、身体虐待が2件、心理的虐待が5件でございます。平成20年度はネグレクトが1件、身体が2件、心理的はゼロでございます。心理的と言いますのは、親のDV等に伴う精神的影響による子どもへの影響ということで解釈いただきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（堀江 隆臣君） 島田君。

○9番（島田 光久君） やはり、在宅で介護をしている中で、さまざまな問題が発生しています。これを行政がいかにか支えていくか、そして地域ぐるみで、これを早期に発見して解消していくか。私は、この取り組みが一番重大な問題ではないかと思うんです。

認知症も相当ふえていると私は思います。確かに、本当に手に負えない方も中にはいらっしゃいます。

新聞紙上で見ますと、認知症のサポーター養成というのは、地域で認知症の人をしっかりと支えていこうではないかという取り組みだと思っておりますけれども、上天草市の場合、認知症サポーターの事業は、今どれくらい進められていますか。

○議長（堀江 隆臣君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（松浦 省一君） 国が認知症サポーターを1年間に100万人育成するというキャラバンがございまして、その一環としまして上天草市でも取り組んでおります。

キャラバンメイトと言われる方がおられるんですが、その方と市の地域包括支援センターの協力によりまして、認知症を正しく理解し、認知症の人やその家族を温かく見守り、支援するとい

う認知症サポーターを育てておりますが、平成18年度から20年度までの実績としまして、講座を修了された方が上天草市には219名いらっしゃいます。熊本県下では約2万3,000人が受講を修了されているということでございます。

○議長（堀江 隆臣君） 島田君。

○9番（島田 光久君） この事業をまだ続けていく必要があると思うんです。学校教育の場でも、小学生、中学生、子どもたちにも認知症というのはどういう病気なのか、認知症は病気だから治るといふうに、今はなりつつあります。

これからはサポーター養成、小学生、中学生にも広げていって、市内全域で、それぞれの地域で認知症対策に向けて取り組む必要があると私は思うんですけども、その辺はどうですか。

○議長（堀江 隆臣君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（松浦 省一君） ただいま天草圏域では、昨年11月から「あまくさ♡認知症を地域で支える会」というのを設立しまして、それぞれ会員が地域の認知症サポートについて活動をしているところですが、上天草市におきましても、各地区の老人会の方、婦人会の方、そういった集まりに認知症の研修会等を行っております。

地域包括支援センターの職員が寸劇等をやって、認知症の理解を求めている現状でございます。今後も、サポーターをふやしていくことで進めてまいりたいと思います。

○議長（堀江 隆臣君） 島田君。

○9番（島田 光久君） 学校教育の場で福祉教育として、教育の一環として進めていいと思うんですよ。子どもたちへの影響は相当強いと私は思うんですが、その辺はどうですか。

○議長（堀江 隆臣君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（松浦 省一君） 学校教育は私の専門ではございませんけれども、私たちからお願いをして、できればそういった中で取り組んでいただけるようにしていただければいいなと思います。

○議長（堀江 隆臣君） 島田君。

○9番（島田 光久君） できれば、子どもたちも含めて地域でしっかりサポートしていく、全国的に見て上天草はすごいんだと、全国の見本になるような事業として、ぜひ取り組んでいくべきだと、私は提案しておきたいと思います。

次は、支援策の一環として、各自治体で高齢者のボランティア活動ポイント制を導入して、ほんのちょっとだけの対価を与えとか、そういう事業が結構なされています。

たしか2年前だと思うんですが、市長がなられたたのころに、私もそういう提案をした記憶があります。この間、天草市においても、65歳以上の高齢者が、いろいろな施設なりのボランティアをした場合ポイント制にして、年間5,000円程度の特産品を配付するみたいな天草市の政策も進められています。上天草市がまねするわけではないんですけども、そういう取り組みの研究も支援策として、生きがいつくりとして進めるべきだと私は思うんですけども、市長はこれをどう思いますか。

○議長（堀江 隆臣君） 市長。

○市長（川端 祐樹君） 大変参考になるお話でありますので、今後の当市における心豊かな生活を実現できるために、こういったことも必要ではないかと思っております。

高齢者に限らず、いろいろな点で、市の行政、またその他地域づくりにおいて、多くの方々がボランティア活動等に参加していただいております。それらを総合的にかんがみまして、研究させていただきたいと思えます。

○議長（堀江 隆臣君） 島田君。

○9番（島田 光久君） 時間がないので、次に行きたいと思えます。

さまざまな福祉事業、子育てにしても、高齢者、障がい者にしても、これを網羅する地域福祉計画は、国が進めている事業だと思えます。

上天草市は2年前に地域福祉計画が策定されていて、今年度、活動計画を進めるということになっていますが、その進捗状況がどうなっているか、その辺をわかりやすく説明してください。

○議長（堀江 隆臣君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（松浦 省一君） 本年から、地域福祉活動計画を社会福祉協議会の中で取り組む、今年度中に策定していくということで、前回は申し上げておりましたとおり、本年4月から福祉課の中に地域福祉担当を置きまして、現在、社会福祉協議会とともに策定に取りかかっております。先進地視察とかそういったことを繰り返しながら、現在、週に1回担当が寄って、その事前準備を進めているところでございます。

あわせて、地域福祉計画の進捗状況が指標として定めていなかったものですから、今回改めて、指標も同時につくっていくということで、現在進めております。

また、災害時要援護者支援計画、避難支援計画、これも対象を同じようなものにするところでございますので、同時に計画を進めております。

○議長（堀江 隆臣君） 島田君。

○9番（島田 光久君） 活動計画がしっかりでき上がって、地域に福祉の根がしっかり張っていけるように、そういう活動計画ができ上がってくるのを期待しまして、次の質問に行きたいと思えます。

次は、上天草市観光基本計画策定について質問してまいりたいと思えます。

上天草市は合併して5年ほど過ぎましたが、観光事業が停滞を続けています。各4町がばらばらな観光政策をやってきたのがその原因ではないかと私は考えているんですけども、合併6年目に入り、川端市長はまだ2年目ですが、この上天草の観光の現状を一口で言うと、どのようなとらえていますか。

○議長（堀江 隆臣君） 市長。

○市長（川端 祐樹君） 一口ということありますので、なかなか打開策が見当たらない。そういう現状ではないかと思っております。

○議長（堀江 隆臣君） 島田君。

○9番（島田 光久君） 確かに、なかなか経済も厳しいし、観光産業、劣化していますけれども、見つからない。でも、上天草市はの中で、いろいろな展開を一生懸命やってきていると、私は認めます。

例えば、天草四郎、天草五郎、シンボルキャラクターを使って展開されていますけれども、この天草四郎、天草五郎のシンボルキャラクターについて詳しく説明してもらえますか。

○議長（堀江 隆臣君） 経済振興部長。

○経済振興部長（佐伯 秀昭君） お答えさせていただきます。

天草四郎、天草五郎のシンボルキャラクターについてでございますけれども、景気対策に伴う国の交付金を活用しまして、上天草市ゆかりの天草四郎をモチーフにしたシンボルキャラクター、四郎君を作成したところでございます。

四郎君の活動をサポートするのはクルマエビやシオマネキ、菜の花、ヒメガザミなど上天草の魅力そのものである仲間たちをパライゾファミリーとして位置づけいたしております。

現代のパライゾ、楽園である上天草市の魅力を全国的に伝えるために登場させていただいたところでございます。

また、キリシタン用語で楽園や天国を示す言葉を使ったキャッチフレーズ「愛と平和の楽園！パライゾ上天草」と、海をイメージした市のロゴマークも決まったところでございます。

それから、天草五郎につきましては、親しみやすい上天草市の親善大使としまして、イベント等で着ぐるみによりまして、皆さんと交流をしながら上天草市を市外へアピールしており、その効果はテレビ放映、新聞報道等であらわれておりますので、御承知いただいているかと思っております。

○議長（堀江 隆臣君） 島田君。

○9番（島田 光久君） この天草四郎、五郎のキャラクターを見ると、十字架をつけております。だから天草四郎とイメージするには、天草・島原の乱をだれもがイメージをします。

天草・島原の乱においては、御存じのとおり、島原と天草で3万7,000人ほどの農民が虐待を受け、天草四郎ゆかりの人たちは打ち首、獄門を受け、平戸でさらし首になっています。私はクルマエビ、真珠に囲まれて天国にいるイメージがどうしてもわからないんですよ。歴史認識として、行政がこういう感じで、例えば、四郎さんとか呼ぶんだったらわかるけれども、四郎君と。確かに、四郎君だと親しみやすいんですけども、この天草四郎をモチーフにした場合には物すごく違和感が強いし、仮に関係者とか末裔の人が聞いたら、相当それは不審に思います。

これを続けていかれる中で、恐らくいろいろなところからさまざまな意見が出てくると私は思います。行政が天草四郎を利用してするには、やはり天草四郎が天国で楽しく暮らしているイメージではないんですよ。やはり私は、行政として、その辺の歴史認識がちょっと欠けている感じがするんです。私は、天草四郎をモチーフにして利用するのは別にいいと思うんですが、知識レベルが低い。歴史認識について教えてください。

○議長（堀江 隆臣君） 経済振興部長。

○経済振興部長（佐伯 秀昭君） 今の状況から、島田議員さんがおっしゃいます、未来と希望

があるような上天草市をイメージしたところで、そういう形で製作させていただいておりますけれども、日本史に名を残しましたこの人物の誕生地が本市との説もありますし、誇りであるのと同時に、これ以上の観光の宝、資源はないものと思います。

天草・島原の乱はキリシタン弾圧への抵抗と、貧窮した島民を守るための一揆であったかと思いますが、観光客の中には、当地の歴史上の英雄である天草四郎を求めて訪れてこられる方も少なくないと思います。しっかりした歴史認識のもとで、天草四郎を観光振興策に取り入れていくのは非常に大切かと思っています。

この件で、旧大矢野町長の川上剛靖氏が平成3年6月にヨハネ・パウロ二世に謁見されました。今、皆様御承知いただいておりますメモリアルホールに記載してありますけれども、そのとき「日本史の中での評価は、無知な農民たちによる反抗的な一揆と位置づけられていることが残念である。キリスト教徒関係者によって外部からもたらされた自由と平等と博愛の精神に感動し、それを求めての革命であったと言うべきである」との見解を述べておられます。

これは参考にですけれども、そういう認識のもとにありますので、よろしくお願いします。

**○議長（堀江 隆臣君）** 島田君。

**○9番（島田 光久君）** そうしたらなおさら、天草四郎の認識、本当の歴史を伝えて、天草四郎は歴史上の人物です。確かに、勇気を持って、自由と平和を求めて戦った。農民のため、あるいは宗教戦争ではなかったかと述べる人もいらっしゃいます。これからは本当に、つくられた、つくった観光ではなくて、本当の歴史を認識した文化を売り込んでいかないと、恐らく見た目だけの観光では伸びていかないんですよ。

だから、しっかり歴史認識を押さえて取り組む。そして行政が、いかにも天草四郎が天国に行っていると、確かに、いかにもいいような言い方をされたけれども、どうしても行政としては認識不足ではないかと思うんです。

市長、どう思いますか。

**○議長（堀江 隆臣君）** 市長。

**○市長（川端 祐樹君）** 歴史認識についてはいろいろと諸論がありまして、私自身のとらえ方は、この天草・島原の乱というのは一つの民主革命であったと認識しております。農民の一揆等があったわけでありましてけれども、やはり自由を求めて立ち上がったというのが根底にあると思います。

その中で、天草四郎という人物についてのイメージを我々もいろいろ検討したんですけれども、やはり現在のところ暗い、または悲しさが漂うイメージだと思います。

我々の地域振興というのは、なかなか集客力もありませんし、これまでのイメージとは変わったものを展開しなければいけないという思いでおります。

そういう点に立ちまして、今回キャラクターをつくり、そのキャラクターはごらんとおり元気がよくて明るい、何かわくわくさせるような、そういうイメージを抱いております。これは、全職員に幾つかの案を投票していただいて、最大多数をもって決定したキャラクターでございます。

す。歴史認識を問われればいろいろ諸論がありまして、私たちも一つにまとめきれるものではないです。ただ、これから上天草市を全国または世界中に売り込む前段といたしまして、このキャラクターをもって、一つの明るい方向性のイメージづくりでいきたいという思いであります。御理解いただきたいと思っております。

○議長（堀江 隆臣君） 島田君。

○9番（島田 光久君） 私の考えと大分、180度違います。

これから雲仙天草観光圏というつながりをつくっていく場合に、やはりキリスト教の西洋文化の流れを追って観光客が流れてくると私は思うんですよ。それには世界から天草に、長崎から天草へ渡ってくると思うんですよ。中には、本当にクリスチャンに詳しい文化人もたくさん来ると思っています。島原から天草への、西洋文化、キリスト教の連動があるわけです。本当に歴史文化を追って天草に来た場合には、天草四郎という人物に必ずぶつかるんですよ。

この間、私は初めてメモリアルホールに見学に行ってきました。確かに、上手にモニュメント化されていて、大体わかるんですよ。あれを見てもやはり迫害とか、本当に一生懸命地域のために自由を求めて戦っているとした場合に、あれは一つの宗教戦争ではないかという人もいるし、天草の教会を世界遺産登録にノミネートしたいという流れもあるところを見ると、上天草市の天草四郎、どうしても島原の乱とかクリスチャンとかぶつかってくるんですけども、行政としては、その辺の歴史認識をもうちょっと深く掘り下げて、やはり慎重に取り組む必要があると私は思っています。

どうですか、市長。

○議長（堀江 隆臣君） 市長。

○市長（川端 祐樹君） 歴史認識を、今後も検討させていただきたいと思っております。

ただ、今回天草四郎のことを取り上げていただいているんですけども、天草四郎に関する文献とか歴史上の資料というのが島原の乱後に封印されておりまして、確かな材料がないところがございます。

そのため、いろいろな諸説にわたって歴史認識があるわけですけども、今後この天草四郎というものをもう一回掘り下げて、この島原の乱がどういうものであったのか、また天草四郎という人物がどういう人物であったのかというのは、我々が追求すべき一つのテーマであると思っておりますし、また社会的に大変意義があると思っております。

行政側で、観光もしかりでありますけれども、博物館的に、そういった社会文化的資料を整えるのも、今後の一つのあり方ではないかと思っております。

いずれにしても、天草四郎を一つのテーマとした、いろいろな地域振興策が図れるのではないかと思っております。

○議長（堀江 隆臣君） 島田君。

○9番（島田 光久君） 私は、天草四郎を使って観光掘り起こしは十分いいと思うんですよ。

これを民間がするんだったらすごくいいと思うんですけども、行政がこれを使っていると、ど

うも違和感があるものだから、できたら慎重に検討してもらいたいと思います。

○議長（堀江 隆臣君）　ここでお諮りいたします。

12時を過ぎましたので昼食の時間となりましたが、島田議員の一般質問が終了するまで会議を続けたいと思います。

これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（堀江 隆臣君）　御異議なしと認めます。よって、時間を延長して会議を続けます。  
島田君。

○9番（島田 光久君）　時間がないから、今度は次に進みます。

上天草市の財政と補助金制度について、お尋ねしたいと思います。

今年からガイドラインをつくって補助金制度を変更されると思うんですけども、それを簡単に説明してもらえますか。今はまるまる補助金だったと思うんですけども、ガイドラインに沿ってどういう補助金制度になされたのかというところを。

○議長（堀江 隆臣君）　総務企画部長。

○総務企画部長（永森 良一君）　お答えいたします。

御存じのとおり、合併して以来、根本的な補助金の見直しというのは行われておりませんでした。財政改革の中で、一つの大きな柱としてこの補助金改革をとらえておりまして、昨年3月、補助金ガイドラインという名称で基準等を設けました。それによって、あるいはそれに沿って改革をいたし、平成21年度の予算計上をいたしました。

○議長（堀江 隆臣君）　島田君。

○9番（島田 光久君）　それでは、上天草市の補助金の団体はどれくらいで、この制度で総額どれくらいの補助金がつけられているのかを教えてください。

○議長（堀江 隆臣君）　総務企画部長。

○総務企画部長（永森 良一君）　お答えします。

46団体の、2億1,736万6,000円です。

○議長（堀江 隆臣君）　島田君。

○9番（島田 光久君）　その中で、ガイドラインに沿って事業の半分補助の形で、補助団体が相当なされていると思うんですけども、例えば、補助金を申請する場合に、大体何月までに募集されるのか、そして、前年度比で内示はどの時期に出されるのか。その辺を教えてください。

○議長（堀江 隆臣君）　総務企画部長。

○総務企画部長（永森 良一君）　申請の時期ですけども、これは当然、予算編成と絡んでまいります。予算編成が毎年9月ごろから始まります。これは説明会が最初なんですけども、それに合わせて、1月中旬の最終的な査定までの流れの中で行います。

もう1点は――。

○9番（島田 光久君） 締め切りの時期もお願いします。

○総務企画部長（永森 良一君） そういう状況の中で行われますので、遅くとも9月、予算編成の第一歩の段階までには、当然そういう部分が必要になってまいります。

○議長（堀江 隆臣君） 島田君。

○9番（島田 光久君） ということは、担当課で取りまとめて補助金申請を財政課と調整して、そして査定を行って、3月議会にかけると。私は、3月議会にかかったら、ほとんど内示に近いみたいな形が現状だと思うんですよ。その内示は大体、いつごろ各団体に出されますか。

○議長（堀江 隆臣君） 総務企画部長。

○総務企画部長（永森 良一君） 私の知る限りでは、その内示という形はとっていないと思います。補助金の申請をしていただいて、そのやりとりの中で来年度の交付金額が決定してまいりますので、そういう流れの中で、皆様、来年度の補助金についての御認識をいただいているものと思っております。

○議長（堀江 隆臣君） 島田君。

○9番（島田 光久君） ということは、補助申請をしないとほとんど、今までみたいにほとんど補助金はつかないと理解してよろしいですか。

○議長（堀江 隆臣君） 総務企画部長。

○総務企画部長（永森 良一君） まず補助金制度の根底は、申請があって、あるいはその事業があって交付すべきものですので、申請がなければ、当然補助金の交付はないものと思います。

○議長（堀江 隆臣君） 島田君。

○9番（島田 光久君） 各種団体は零細な団体が多いし、事業の半分補助ということで、やはり本当に資金がなくて、補助申請に苦慮されて申請されていると思うんです。

ことしの申請はこういう形で行われたんですけども、また来年度、これから来年度に向けて、各団体申請をつくってくると思うんですけども、確かに事業を組めないんです。ほとんどの団体が会費みたいな収入しかないものですから、利益事業ではないからですね。

だから、私から提案なんですけれども、補助事業の半分補助を3分の2補助に変えてもらえないだろうか、その辺についてはどうですか。

○議長（堀江 隆臣君） 総務企画部長。

○総務企画部長（永森 良一君） 補助金の交付というのは各種46ございますけれども、46の補助金要綱というのが定まっております。その要綱の中で定めてある事業を実施しているのかどうかということで、仮に事業を実施しているのであれば、その2分の1を交付ということで現在行っております。

島田議員御提案の、2分の1を3分の2にということですが、現在のところは2分の1ですけども、どうしても運営上立ち行かない、そのことがいろいろな面で市の停滞、例えば経済的な部分であったり文化の振興であったり、そういう部分で停滞をするということであれば、そういうことも今後検討していかなければいけないことだとは思っています。



○議長（堀江 隆臣君） 島田君。

○9番（島田 光久君） では、補助金制度はまた機会があったら議論したいと思います。

時間がないから、次へ行きます。

次は農業、漁業の現状と課題。もう時間も少ないから、簡潔にいきます。

ことし、前年度の天草全域と上天草市のイノシシの捕獲頭数を教えてください。

○議長（堀江 隆臣君） 経済振興部長。

○経済振興部長（佐伯 秀昭君） お答えします。

上天草市における捕獲頭数は、平成18年度37頭、平成19年度149頭、平成20年度には299頭と、年々増加の傾向にある状況でございます。

○9番（島田 光久君） 天草全体は。

○経済振興部長（佐伯 秀昭君） 済みません。天草全体のほうは、ちょっと資料を持っておりませんので、お許しいただきたいと思います。

○議長（堀江 隆臣君） 島田君。

○9番（島田 光久君） わかりました。

私も資料を持っていたんですけども、恐らく答弁があると思って持ってきませんでした。

恐らく、ことしも相当イノシシの被害がふえると思うんです。その中で一番、私が昨年から心配していたのは、これからちょうど夏場に入ってきますので、昨年度、紅斑熱が相当発生したんです。これが、今年度も発生する兆しもちらほらあるみたいを感じるんですけども、その対策は、市として取り組むというのは計画されていますか。

○議長（堀江 隆臣君） 経済振興部長。

○経済振興部長（佐伯 秀昭君） 今の、病気にかかるという点での議員御指摘でございますけれども、前回その問題が発生しました折に、市で検討、あるいは対策を行っていくという答弁がなされていたかと思います。

そこにつきましては、まだこちらといたしましては、詰めをどういう形でするかというところまで協議に至っていない状況でございます。

○議長（堀江 隆臣君） 島田君。

○9番（島田 光久君） 去年の12月議会をお願いして、ことしまでは、どうにか準備をしておきたいとのことでした。もう、時期がすぐ来ているんですよ。確かに、発生しなかったらしなかったでいいんですけども。市長、やはり、すぐ対応できるように、そういう準備態勢は、すぐにでもしておくべきだと私は思います。

それはお願いして、次へ行きます。時間もありませんから。

次は、樋島漁協の債務の現状と、これからの対応についてお尋ねしたいと思います。

今、漁信基からの報告とか督促とか来ていると思うんですけども、今の状況はどうなっていますか。

○議長（堀江 隆臣君） 経済振興部長。

○**経済振興部長（佐伯 秀昭君）** 今の樋島漁協の債務の状況についてですけれども、平成21年5月28日現在の残高は5,568万9,100円でございます、毎月12万2,600円ほどの返済がっております。

今後の私たちの対応といたしましては、まず漁協が自己競落されました担保物件につきまして、なるべく早く売却いただきますよう、強くお願いしていきたくと考えております。

○**議長（堀江 隆臣君）** 島田君。

○**9番（島田 光久君）** 漁信基からの督促が来ているという話ですが、内容はこういった形で来ていますか。

○**議長（堀江 隆臣君）** 経済振興部長。

○**経済振興部長（佐伯 秀昭君）** 熊本県漁業信用基金協会から市長宛に、最終期日以降の償還状況とか、あるいは未償還額が幾らとか、そういう形で来ております。

○**議長（堀江 隆臣君）** 島田君。

○**9番（島田 光久君）** その中で、例えば、いつまでに払ってくれとか、そういうのはないんですか。

○**議長（堀江 隆臣君）** 経済振興部長。

○**経済振興部長（佐伯 秀昭君）** この督促状につきましては、これに記載してあります最終期日は平成19年12月31日となっております。

○**議長（堀江 隆臣君）** 島田君。

○**9番（島田 光久君）** 最終期日が19年12月31日だったら、今年は21年度だから、もう1年半ばかり最終期日が過ぎているんですけれども、これは今後どういうふうになっていきますか。金利はつかないんですか。

○**議長（堀江 隆臣君）** 経済振興部長。

○**経済振興部長（佐伯 秀昭君）** 前任者が今まで協議をなされておりますけれども、その過程では、金利の件については問わないという見解が出されていたかと思えます。

○**議長（堀江 隆臣君）** 島田君。

○**9番（島田 光久君）** 金利がつかないということは、市としては払わないで、そのままの状態を押していくんですか。

○**議長（堀江 隆臣君）** 経済振興部長。

○**経済振興部長（佐伯 秀昭君）** 信用基金協会と協議してきております中では、22年9月30日までを期限という形で協議がなされてきている状況でございます。

○**議長（堀江 隆臣君）** 島田君。

○**9番（島田 光久君）** ということは、22年9月30日までは金利はつかないんですか。

○**議長（堀江 隆臣君）** 経済振興部長。

○**経済振興部長（佐伯 秀昭君）** 協議の時点では、そういう形で進んでいたかと思えます。

○**議長（堀江 隆臣君）** 島田君。

○9番（島田 光久君） 確かに、樋島漁協の債務は行政、旧龍ヶ岳町から引き継いだ債務であって、市としては前向きに処理する方向で検討すべきではないかと私は思うんです。やはり市の信用度もありますし、市民が理解できるような方策を練って、早期に予算計上するなりしないといけないと思うし、22年9月ということは来年9月ですけれども、もう補正ではなくて、来年度当初予算に組む予定でこれから協議されていくんですか。

○議長（堀江 隆臣君） 経済振興部長。

○経済振興部長（佐伯 秀昭君） その点につきましては、顧問弁護士等も含めまして、いろいろと今まで論議されてきておりますけれども、市としてのそういう責任があるといえますと、それに向けて、市民の方の理解も得ながら今後進めていかなければならない。あるいは議員皆様方の承諾を得ながら、この件につきましては協議させていただきたいと考えているところがございます。

○議長（堀江 隆臣君） 島田君。

○9番（島田 光久君） もう時間がなくなりましたので、この続きはまた次回にしたいと思います。

私の質問はこれで終わります。どうもありがとうございました。

○議長（堀江 隆臣君） 以上で、9番、島田光久君の一般質問が終了しました。

ここで昼食のため休憩いたします。午後1時15分から再開いたします。

休憩 午後 0時15分

---

再開 午後 1時15分

○議長（堀江 隆臣君） 休憩前に引き続き再開いたします。一般質問を行います。

13番、北垣潮君。

○13番（北垣 潮君） 13番、北垣潮です。

選挙前から体調を崩し、現在まだリハビリ中で唇が少し麻痺していますので、うまくしゃべれないと思いますが、一生懸命頑張ります。

健康が一番ということで、現在ダイエット中です。8キロ落としましたが、70キロまであと5キロになってから、なかなか下がりません。

私は今回の選挙で、リーフレットに、議会の活性化と精鋭化に努め、上天草市議会基本条例の制定に向け努力すると書きました。また、4年間の議会報告の中にも、議会基本条例について書きました。議会基本条例に向けて努力すると書いていましたが、皆さんがそういう気持ちになっておられ、余り努力しなくてもいいのかなという気持ちになって、大変うれしく思っております。

今回、認知症高齢者対策について、新型インフルエンザ対策について、統廃合後の大道中学校の活用策について、原発誘致の動きに対する市の対応について、市営住宅並びに上天草水害団地の現状について質問します。

ゆうべ家に帰ったら、東京の姉から電話があって「私も12月議会の議事録を見た。あんだ、

職員の人をばかにしている」とやかましく言われました。私も反省しております。部長、済みませんでした。

認知症対策についてお聞きします。全国で200万人、85歳以上の4人に1人が認知症と診断され、2025年には300万人を超えていると言われております。本市では、認知症と診断された方はどれくらいおられますか。それから、早期発見、早期治療対策については、どのようにされていますか。それについてお聞きします。

○議長（堀江 隆臣君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（松浦 省一君） まず、認知症の実数ということですが、はっきりした数字はつかめておりません。

といいますのが、認知症は認定するものではございませんので、なかなか実数が把握できないところです。

ただし、平成20年度2月の診療分のレセプトにより確認しましたところ、医療機関で認知症と診断を受けた方、65歳以上で356人程度いらっしゃいます。そのうちで入院されているのが116名、外来が240名という数値になっております。

なお、介護保険の認定制度の中で認知症認定がありますが、認知度の度合いを示す2A以上の方が約1,100人いらっしゃいます。要介護1から5の方のおよそ9割の方が、大体何らかの認知が入っているということでございます。

そういったことで、早期発見につきましては、今のところ病院の医師の診断に基づくものしかありません。あとは介護訪問の調査をするときに、調査員がある程度認知が認められるというぐらいの程度しか、今のところありません。

治療につきましては病院ですので、私のほうでは詳しくわかりませんが、治ることは余りないということをお聞きしております。薬とかそういったことで、ある程度進行をおくらせることはできるとお聞きしているところでございます。

以上でございます。

○議長（堀江 隆臣君） 北垣潮君。

○13番（北垣 潮君） 私の聞いていることと、ちょっと違うかなというところがありました。認知症は愛のシャワーで、友愛のシャワーで少しずつよくなるという話も聞いております。

また、家族とかがやかましく言えば脳の細胞が壊れていき、だんだん悪くなるという話も聞いております。

認知症の方を地域で温かく支える取り組みについてどう考えておられるのか、その辺をよろしくお願ひします。

○議長（堀江 隆臣君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（松浦 省一君） 先ほども島田議員にお答えしたんですが、認知症について正しく理解し、認知症の人やその家族を温かく見守り支援する応援者として、認知症サポーターの養成を行っております。18年度から20年度までの講座修了者が219名いらっしゃいま

す。

また、天草圏域では、平成20年11月に「あまくさ♡認知症を地域で支える会」を設立しております。地域の人々が認知症へ理解を深め、サポートしてもらえるようなまちづくりを目指しております。150名の会員がいるということでございます。

○議長（堀江 隆臣君） 北垣潮君。

○13番（北垣 潮君） わかりました。先ほどの島田議員と質問が重複しましたので、私はちょっと違うほうから、市で取り組んでもらいたいということで、提案をしていきたいと思えます。

大牟田市が「わがまち大牟田」という認知症早期発見・支援ハンドブックを出されております。私もこれを見て、本当にいいなと思えました。みんなで支えていくといいますが、そういうことがずっと書かれておまして、島田議員もさっき、子どものときから認知症に対して、子どもたちにも理解させるということも言っておられました。本当に子どものときからお年寄りを大事にするというか、だれでもが認知症にはなりやすいということだそうなので、みんなで支える取り組みを、この大牟田市の認知症早期発見・支援ハンドブックを参考にしてもらって、上天草市でも、もっといい支援ハンドブックができたならなと思えます。

早期発見の初発症状ということで、まず同じことを言ったり聞いたりする。皆さんはそういうことはないと思えますけれども、皆さんの周りにそういう人もおられると思えます。また、物の名前が出てこなくなった。私もたまにそういうこともあります。置き忘れやしまい忘れが目立った。以前はあった関心や興味が失われた。日課をしなくなった。だらしなくなったということが初期症状に出てくるそうでありまして。部長、ぜひとも、大牟田のこういうものを上天草市でも出してほしいと思えますので、検討できますでしょうか。

○議長（堀江 隆臣君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（松浦 省一君） はい。後ほど見せていただき、またいろいろな情報を収集したいと思っております。

○議長（堀江 隆臣君） 北垣潮君。

○13番（北垣 潮君） 前向きにやってほしいと思えます。本当に、あすは我が身かもしれないので、よろしくお願いします。

次に、新型インフルエンザについて質問します。

6月10日の熊日投稿欄には、熊本市内の勤務医の方が「新型インフル、幅ある対応を」ということで投稿されておりました。紹介してみます。

先日の「新型インフル 校内に患者で休校 熊本県教委が判断基準」の本紙記事に驚いている。専門家は証拠がないと確定的なことを言わないので、感染症専門でない私がかわりに意見を述べる。

連休中、航空機からおり立つ多数の旅行客のごく一部の人を検査して、新型が見つかった。だから、医学常識的に考えて、無症状の感染者は第1次発見前に日本じゅうに散らばり、ウイルス

は既に県内でも定着していることは容易に想像できる。暖かくなり、ウイルスの勢いが一時衰えているだけである。毎年冬にはインフルエンザが流行する。今年はそれが新型かもしれない。延々と休校を続けるのか。今後見つかるであろう県内患者第一号を悪者扱いする報道は絶対にやめてもらいたい。

しかし、今回の新型は病原性が季節性のものと同じ程度らしいとわかったのなら、今まで同様に児童生徒の出席停止、学級学年閉鎖、休校と幅のある対応をすればいいのではないか。インフルエンザの封じ込めが可能と本気で考えている医学者はいない。

ところで、休校になっても、無症状の児童生徒でも、病院や老人ホームへの見舞いには来ないでほしい。インフルエンザ感染が新型でなくても、体の弱った人は重症化する。

さて、センター試験も毎年インフルエンザの流行時期に行われるが、一度感染して免疫ができた高校生は有利ではないかとも思う。と結ばれています。

私は医学的な知識はありませんが、季節型のインフルエンザと同程度の病原性であるならば、余り騒ぐ必要もなかったのではないかと思います。むしろ、毒性の弱いうちに感染した人は免疫ができて、秋から冬に発生したときは、同じウイルスに対して大丈夫ではないでしょうか。

4月23日にメキシコで新型インフルエンザのアウトブレイクが伝えられてから、6月17日、きのうの段階では、国内31都道府県で666人となりました。メキシコでは4月24日62人、4月25日81人、26日103人、28日150人。また5月3日の新聞では、メキシコの感染者数397人、死者16人、致死率4%、スペイン風邪並みの致死率でした。

そこで今回の大騒ぎになったと思いますが、ほかの国では0.4%、0.1%であります。メキシコでの致死率が高かったのは、政府の対応がおくれたため感染による死者が拡大した、死者のほとんどが貧しい労働者で、最初の患者は重度の人が多く、初期のころは手おくれの状態で運ばれ、亡くなる人が多かったそうです。経済的な問題で病院に行けない人が新型インフルエンザで亡くなったそうでもあります。富裕層が通う病院では、40人のうち1人が亡くなったそうです。亡くなったのは糖尿病患者だったそうです。新型インフルエンザで生死を分けたのはウイルスではなく、経済的な問題だったようです。

日本はまだ致死率では0%の状態ではありますが、決して油断はできないと思います。スペイン風邪も、第2波で死者が多く出たと言われています。上天草市では今回いろいろな取り組みをされたことを聞いておりますが、その辺の取り組みと、前回の3月の質問では防護服のセット、マスク、手袋、ゴーグル、非常食などは購入されたとお聞きしておりますが、どれくらいの量があるのか、お聞きします。

○議長（堀江 隆臣君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（松浦 省一君） 非常食については、まだ購入したというのは聞いておりません。備蓄品と言いまして、防護服セットとか手袋、マスク、そういった備蓄品は購入したということは、前回答えてあると思います。

備蓄品の名称とか数字とか、そういったものでよろしいでしょうか。

○13番（北垣 潮君） はい。

○健康福祉部長（松浦 省一君） 感染症防護服セットにつきましては、150組用意してございます。

マスク関連で約3万5,000程度。それから手袋関係で、100枚入りを100箱。それから納体袋を50枚。

あと、消毒用のアルコールとか次亜塩素酸ナトリウム、液状石けん、綿花等につきましては、救急に必要な部分についてはある程度備蓄をいたしております。

○議長（堀江 隆臣君） 北垣潮君。

○13番（北垣 潮君） 市民向けには、どれくらいありますか。

○議長（堀江 隆臣君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（松浦 省一君） 私たちが用意しておりますのは、あくまで緊急時に現場に直行する人、例えば、役場職員で現場に出向く職員、それから、在宅でひとり暮らしとかそういうことで、どうしても自由がきかない方用ということで、現在考えております。

○議長（堀江 隆臣君） 北垣潮君。

○13番（北垣 潮君） 市民の方で購入されていない、間に合わなかった人たちについては必要だと思いますけれども、その辺については、どう判断されますか。

○議長（堀江 隆臣君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（松浦 省一君） 5月1日でしたか、チラシを区長さん便で配布いたしたと思いますけれども、あの中に必要なものということでお配りいたしました。最終的には、健康な人は自分たちである程度確保していただくということを原則として考えております。

○議長（堀江 隆臣君） 北垣潮君。

○13番（北垣 潮君） 今回関西で感染者が出た段階で、熊本とかこちらの薬局でも、もう店頭で全然ない状態になりました。だから、買っていない人も相当おられるのではないかと思うわけでありますので、その辺のところも考慮してほしいと思います。

それから、ことしの秋から冬の対策として、どのようなことを考えておられますか。

○議長（堀江 隆臣君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（松浦 省一君） 上天草市では鳥インフルエンザ対策ということで、県内でもいち早く新型インフルエンザの対策行動計画、行動マニュアルを作成して、現在取り組んでおります。

その中で、職員の行動の実務マニュアルということで、現在それぞれの組織をつくりまして、その中でグループ分けをいたしまして、いざというときに自分たちがどういう行動をとるかということ、それぞれのグループの中で話し合いをしていただいておりますけれども、できるだけ早い機会に、そういった実働マニュアルを作成したいと思っております。

○議長（堀江 隆臣君） 北垣潮君。

○13番（北垣 潮君） たばこを1日14本以下吸う人は吸わない人の2倍、1日に24本

以上吸う人は、吸わない人の6倍も感染率が高くなるそうであります。ということで、高校生とか、たばこを吸う人たちは特に気をつけて。私も、今は吸わないんですけども、若いときは吸っておりましたので余り言えませんが、高校生とかにも注意してほしいと思います。

それから、妊婦さんとか、基礎疾患をお持ちの方に対してのアドバイスといいますか、指導とかはどういうふうにされておりますか。糖尿病の方、透析している方、がん患者の方、ぜんそくをお持ちの方とか、やはりそういう弱者の方に対しても、いろいろ指導も必要ではないかなと私は思うわけでありますが、その辺についてはどうでしょうか。

○議長（堀江 隆臣君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（松浦 省一君） 確かに、弱者の方の把握とか、そういったことが一番大事になってくると思います。対策班の中でも、高齢者のひとり暮らしはどれぐらいおられるのか、今、着々と準備を進めております。民生委員の方と協力をさせていただいて把握に努めております。その方々の名簿をつくりまして、地図に落とししていく作業にも入っております。

先ほど言われた透析患者の方についても、そういう病院とある程度連携をとりまして、今からその内容を詰めていきたい。まだ、その作業の途中でございます。

以上でございます。

○議長（堀江 隆臣君） 北垣潮君。

○13番（北垣 潮君） 秋までには、新型インフルエンザに負けない体をつくってほしいですか、私が自分に言い聞かせているんですけども。

ウォーキングやジョギングなどは、新型インフルエンザとか認知症の予防にもいいそうであります。キノコ類や納豆、また緑茶も予防効果があるそうです。そういうことを市民の皆さんにもお知らせできればと思います。

また備蓄食材として、ビフィズス菌や乳酸菌、さらにそれらを増加させるオリゴ糖が含まれるタマネギ、活性酸素を抑えるショウガ、プロポリス入りのあめなどもいいそうです。

今回はスペイン風邪と同じH1N1だったのですが、世界保健機関が想定していた強毒性のH5N1型も、いつ発生してもおかしくない時期に来ていると言われております。今回の新型も、どういうふうに変異するかもしれません。万全の態勢をとっていかれることを期待します。

次に、統廃合後の大道中学校の活用策について申します。

昨夜7時半から、上天草市公立学校規模適正化基本計画説明会がありました。龍ヶ岳町では昭和47年の水害ごろ、龍ヶ岳中学校ができる段階だったと思いますけれども、その当時、龍ヶ岳には樋島中学校、高戸中学校、大道中学校があって、この三つの中学校が合併する話が出て、大道地区の人たちが、むしろ旗を立てて役場に押しかけたという話も聞いています。ゆうべの説明会では、龍ヶ岳中学校では何の異論も出ませんでした。大道中の説明会は22日にあるそうです。

その前に大道中学校の活用策について質問するのも時期尚早かと思いますが、大道中学校卒業生の友人から、上天草総合病院も近くにあるし、介護施設とか介護の学校に利用できないだろうかという話を持ちかけられていました。



そうしたところ、私、牛深にちょっと用事があって、牛深の天附に行ったとき、そこに中学校がありまして、ここが同級生が通っていた中学校だなと思いました。そこが、多機能型複合施設「南風ん風」という看板が書いてありまして、こういう施設が大道にもできたらいいなと思った次第であります。こういうものができれば、地域の皆さんの中学校がなくなって寂れるという心配を少し和らげるのかなと思います。ここで雇用も生まれると思います。モデル事業として、再生された廃校を活用した高齢者地域コミュニティ活性化支援事業と書かれておりました。耐震化の問題もクリアして、前向きに検討をお願いしたいと思いますが、だれか答えてもらえませんか。

○議長（堀江 隆臣君） 総務企画部長。

○総務企画部長（永森 良一君） お答えいたします。

きのうも市長が、万が一、廃校になった場合ということで、その事例を幾つか挙げておりましたが、市立小中学校の跡地利用については、平成20年6月に上天草市小中学校及び保育園跡地利用検討委員会というのをつくっております。この検討委員会の中で、跡地利用の基本方針及び具体的な手順等について検討いたしまして、ことしの3月に報告書を取りまとめたところです。

この検討委員会において、平成23年に統合が計画されている大道中学校の跡地利用については、非常時の市民の避難場所、あるいはまちづくりの拠点としての施設、また福祉等の利用が可能ではないかという御意見をいただいておりますので、その点が盛り込まれているかと思っております。

今後の検討委員会のあり方ですが、今、御指摘、御提案いただきましたことも含めて、議員の皆様あるいは市民の方々の御意見や御要望を幅広くお聞きしながら、この基本方針に基づいた具体的な活用策を探っていく必要があるだろうと思っております。

○議長（堀江 隆臣君） 北垣潮君。

○13番（北垣 潮君） どうもありがとうございます。前向きに検討を、地域の皆さんと一緒に探っていきたいと思っております。執行部のほうもよろしくお願ひします。

原発誘致については前回も質問しましたがけれども、県の建設業協会天草支部151社が、天草への原子力発電誘致に向け、経済効果や安全性について調査研究に入ると、5月1日定期総会で、賛成多数で承認されたそうであります。藤本支部長は「天草経済の現状は八方ふさがり状態。現在の国の経済対策は借金頼みで、いずれ大きなしわ寄せが地方に来る。天草はどうやって生きていくのか、真剣に議論したい」とし、原発については「十数年前、旧新和町の横島で原発誘致の話があった。今回は誘致運動ではなく、原発の持つ経済効果や危険性も含めて調査研究する」と語られたそうではありますが、天草市の安田公寛市長は「私は、天草には原発はそぐわないとこれまで言い続けてきた。今の段階では、驚いているとしか言えない」と語ったといわれています。

天草市の市議会最大会派の天政会8人、一新クラブ2人、計10人が2泊3日の日程で、原子燃料サイクル施設の紹介をする六ヶ所原燃PRセンターや青森県東通村にある東通原発などを訪ね、原発の仕組みや地元の経済効果を学ぶと言われております。天政会の代表は「懸案事項の一つになっているので、勉強のために計画した。現時点で原発推進か反対を決めているわけではな

い」と話されているそうです。天草市では、原子力発電所誘致が来年の天草市議会議員の選挙の争点になると言う人もいます。また、ほかの議員さんも視察に行っておられます。

3月議会では、原発問題で市長の答弁をいただきましたが、今回の動きに対して、市長はどのように思われますか。

○議長（堀江 隆臣君） 市長。

○市長（川端 祐樹君） 考えそのものは、3月議会と一向に変わっておりません。

安田市長が言うように、原発は天草にはそぐわない。また、私自身も天草には想定外という思いでおります。

原発の是非についての議論がいろいろされておりますけれども、まず1点としまして、原発は100%安全なのかどうか、まずその1点です。0.00何%かわかりませんが、少なからず100%安全ではないということがあります。もし事故が起こった場合、我々の生命そのものでもすけれども、その後、数十年または数百年にわたりまして影響がございます。そういったことがもし発生した場合、これは天草がどうこうというレベルの話ではなくなります。

またもう1点で、これは我々が進めている地域振興すべてにわたる影響があると思っておりますけれども、天草には豊富な食材、物産、そして我々の現在の平穏な暮らしがあります。それらすべてが脅かされますので、重ね重ねでありますけれども、原発は天草地域にはそぐわない、考えられないと考えております。

○議長（堀江 隆臣君） 北垣潮君。

○13番（北垣 潮君） ありがとうございます。

九州電力などから市長に公式に話があった場合、公開してほしいと思いますが、その辺についても答弁をお願いします。

○議長（堀江 隆臣君） 市長。

○市長（川端 祐樹君） 今のところ、九州電力またその他から公式に話があったことは一切ございません。また、私自身について、私的にも一切ございません。

もし、具体的な話が出てくるようであれば、そのときは順次公表していきたいと思っております。これは大事な問題だと考えております。

○議長（堀江 隆臣君） 北垣潮君。

○13番（北垣 潮君） もし、上天草市に立地の話がきた場合、天草市の方の話では、上天草のなんとか島というところに話があるよという話も聞いております。

もし、上天草市に立地の話がきた場合、我々議員だけで決めてはいけないと思っております。その場合、住民投票条例を制定するべきだと思いますけれども、その辺については、市長はどのような見解をお持ちでしょうか。

○議長（堀江 隆臣君） 市長。

○市長（川端 祐樹君） これは地域住民の将来すべてにかかわりますので、必要があれば、住民投票条例の制定もあり得るものと考えております。

○議長（堀江 隆臣君） 北垣潮君。

○13番（北垣 潮君） 天草市に立地がなっても、同じ天草ですので、やはり反対していくべきだと思います。観光、漁業、農業のイメージについても大きな打撃を受けるだろうと思いますので、どうぞよろしくをお願いします。

最後になりましたけれども、5番目の市営住宅並びに上天草水害団地の現状について質問します。

19年の6月議会でも同様の質問をしましたが、今回まだ解決できていない問題と、新しい課題について聞いていきます。

解決できていない問題として、白浜団地内の舗装道路の件であります。19年の6月議会では、当時の鬼塚建設部長の答弁では、平成18年度に区長さんから統括支所を通じて要望が上がり、18年度の水道工事を一部舗装がしてあり、20年度以降にコミュニティープラント下水の排水路の改修計画があり、そのプラントの改修計画にあわせて舗装もやっていきたいという答弁でございました。市長もスピーディーに対応していきたいとの答弁でありましたが、いまだ何も進んでいません。

当時、4人の方が転んで、病院に入院されるなど大きいけがをされていましたが、今回も二人の方が転んでけがをされているのを見て、再度質問に立ちました。市民の安心、安全のために、そして私たち議員も、市民の皆さんの利便性や福祉向上のために頑張っていかなければと思っていますところでございます。

この道路の問題については、市はどのように考えておられるのか、またけがをされた方に対しては、どのように思われているのかお聞きします。

○議長（堀江 隆臣君） 建設部長。

○建設部長（永森 文彦君） 私も当時は建設部長ではありませんでしたが、コミュニティープラントの改修を待ってからということは聞いておりました。

コミュニティープラントは、改修した場合、その当時は相当故障がひどいということで、大規模な改修に事業費が要するというので、検討されておりました。建設部内に移る前の環境衛生課の中の職員が、新規にやりかえるか改修にするかということで、実際にプラントの中に潜って、業者と立ち会いをしたところ、これは改修、修理で済むという話になりまして、現在に至っております。

そして、4月の組織改編でコミュニティープラントは建設部に移ってきておりますので、現在は建設部の都市計画課内でコミュニティープラントを担当しておりますところでございます。それによりまして、コミュニティープラントの修理は道路を開削して、大きな道路工事を要しないで修理の方向ですということでございますので、18年、19年当時の大きな改修工事はひとまず回避されましたので、改めて議員質問の団地内の道路、団地の住宅内の道路につきましての補修の計画を現在は計画中であります。

以上です。

○議長（堀江 隆臣君） 北垣潮君。

○13番（北垣 潮君） けがをされている方に対しては、どのように思われているのか、お聞きします。

○議長（堀江 隆臣君） 建設部長。

○建設部長（永森 文彦君） けがをされた方には、まことに申しわけない気持ちでおります。

私どもも、18年当時から団地内の道路につきましては、今申し上げましたように修理もしたいし、全面舗装もやりかえたいという計画は当時から持っておったと思いますが、何分財政的な事情もございまして、そういったことができなかったことに対して申しわけなく思っております。

以上です。

○議長（堀江 隆臣君） 北垣潮君。

○13番（北垣 潮君） 経済対策とか、こういうものを回してもらうことはできないでしょうか。

○議長（堀江 隆臣君） 建設部長。

○建設部長（永森 文彦君） この議会でも、盛んに経済対策の予算が論議されております。政府によりまして、20年度の臨時の交付金あたりをいただいております。21年度につきましても、私ども建設部内の二課の意見をまとめまして、現在、財政課に要求しておりますのが、4億8,000万円ほど必要という、箇所数でいきますと100カ所以上の要望を出しております。

しかしながら、今議会でも再三いろいろな方から質問をされて、答弁もされてはいますが、福祉事業やソフト事業にも相当な要望もされておりますし、私も聞いていまして、各方面いろいろ大変だなと思っております。

しかしながら、私どもが一番身近に住民と接しますのは、そういう舗装の小さな要望から、小さな河川の改修、またガードレール、いろいろな要望がありまして、先ほど申し上げました4億8,000万円ほど、今回21年の補正、実は上天草には6億7,000万円の交付金が予定されているという中で、私どもは4億8,000万円ほど要求をしております。その中でどれくらい認めていただけるか、今から財政、総務、いろいろな査定があると思っておりますけれども、できるだけ皆さんの希望に沿うような予算をいただけたらいいなと思っております。

以上でございます。

○議長（堀江 隆臣君） 北垣潮君。

○13番（北垣 潮君） 市長も連日、心豊かに安心して暮らせるまちづくりを目指すとされておりまして。水害団地も、もう三十五、六年になりますかね。高齢者の方が多く、以前は側溝のふたをあけて、自分たちで側溝の掃除をしておられたそうでもありますけれども、みんな年をとってしまって、自分たちではできない状態になっており、その辺も何か、地域の人たちと協力して、市でも少し力を貸していただいて、側溝の掃除とかを梅雨前にしてもらえればという要望も、龍ヶ岳地区のほとんどの水害団地で聞いておりますので、この辺についても検討で

きないでしょうか。

○議長（堀江 隆臣君） 建設部長。

○建設部長（永森 文彦君） 私も、議員から質問があるということで、担当者を引き連れて姫戸、龍ヶ岳の団地を視察に行きましたが、相当ひどうございます。議員の指摘のとおりでございます。

やはり、老朽化が原因といたしますか、昭和47年以降の建物でございますし、建物そのものも傷んでおりますし、道路も傷んでおります。当然、側溝も傷んでおります。現状も見てきました。そういう側溝の清掃につきましても、私どもも応援はしたいと思っております。住民の皆様がボランティアでされるときに大きな応援はできませんけれども、地域の皆さんの要請によりまして、重機あたりとか、できるだけいろいろなことについて検討をしたいと思っております。

○議長（堀江 隆臣君） 北垣潮君。

○13番（北垣 潮君） ぜひとも、地域の区長さんと話し合っ、て、そういう側溝の掃除とかをしてほしいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

また、この間、白浜の団地に行ったとき、トイレの話ですけれども、2階のアパートの方が「4階のほうは洋式になって、2階は和式になっている」ということで、90歳を超えたお母さんの介護をされているお姉さんの要望でありました。

とにかく、用を足すときに洋式だったらいいのになという要望でありましたけれども、その辺に対しては、部長、どうにもなりませんか。

○議長（堀江 隆臣君） 建設部長。

○建設部長（永森 文彦君） 下貫団地は、トイレのシステムそのものは水洗化されております。水洗化トイレでありますけれども、和式の、日本式型の水洗トイレでございます。高齢化が進みまして、そういうトイレを使う状態が非常にづらい状況もわかります。しかし、姫戸の団地を例えにとりますと、まだ水洗化すらされていない団地のトイレもありますし、非常に厳しいわけでございます。

議員から質問がありましたので、設備屋さんと話しましたところ、和式にかぶせるプラスチックの便器ですけれども、少し使いづらいという話もありましたが、単純にかぶせるだけの便器なら一万五、六千円であります。また、完全に洋式のトイレにかえる場合は十五、六万円で改造できるということでございます。市営住宅ですので、その十五、六万円を私どもがすべて応援して、改良してやりたいんですけれども、何回も言いますように、こういう厳しい時代ですので、なかなかその希望には浴えないと思っております。

以上でございます。

○議長（堀江 隆臣君） 北垣潮君。

○13番（北垣 潮君） 部長が言われるプラスチックの便器は滑るので、かえって危険だそうでありまして、85歳以上の方を特例でとか、何とかそういう優先でできないかと。親孝行されている、親の面倒を一生懸命見ておられる、そういう人にこたえるのも政治家の仕事だと

思うわけであります。弱い者を助けるのが政治の力だと思います。そういうことをしても、だれも文句は言わないという声もあります。

市長の答弁をお願いします。

○議長（堀江 隆臣君） 市長。

○市長（川端 祐樹君） 今回の議会でのさまざまな御指摘の中で、やはり社会的に光が当たっていないところに対するあり方を随分指摘いただいております。今回、議員御指摘の部分も恐らくそういう部分だと認識しております、そこに光を当てるのは、私もですが、皆様方とともに心豊かなまちづくりを目指す上で一番大事な考え方だと思います。

今回、85歳以上を特別にどうかという点でございます。この点を早速持ち帰らせていただいて検討し、もしでき得れば、今回の経済対策等で実行できればと考えております。

○議長（堀江 隆臣君） 北垣潮君。

○13番（北垣 潮君） 心豊かに安心して暮らせるまちづくり、お年寄りの方が上天草市で最期を迎えてよかった、南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏と手を合わせて拝まれるような施策をお願いしまして一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（堀江 隆臣君） 13番、北垣潮君の一般質問が終了いたしました。

以上で本日の議事日程は終了いたしました。

ここで、あした以降の日程について御連絡をいたします。

あした19日は文教厚生常任委員会及び経済建設常任委員会の2委員会を開催し、22日は総務常任委員会が開催されますので、各委員の方は御出席をお願いいたします。

本日はこれにて散会いたします。

散会 午後 2時04分